

かながわ環境白書

令和7年版

神奈川県 環境農政局

×「エコビーのかながわ環境通信」で
県の環境に関する情報を発信しています

https://twitter.com/Env_KNGW



イベント情報などをつぶやいています、ぜひご覧ください！

かながわ環境白書について

Ⅰ はじめに

かながわ環境白書は、神奈川県環境基本条例に基づき、県における環境の状況や環境保全のための施策を広く県民の皆様に周知し、環境問題に対する認識と理解を深めていただくことを目的に、毎年、発行しています。

今日の環境問題には、地球温暖化をはじめとする気候変動、海洋プラスチックごみ、生物多様性の損失など様々なものがあり、神奈川県内でもその影響が確認されています。このような問題の解決を図るため、さらには、持続可能な開発目標「SDGs」の達成や、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「2050年脱炭素社会の実現」のため、本県では、多様な角度から環境施策を推進しており、この白書にはそういった取組をまとめています。

本書が、将来にわたって良好な環境を保全し、次世代に引き継いでいくための一助となれば幸いです。

2 本白書の構成 （詳細は目次を御覧ください。）

本白書は、主に3つのパートから構成されています。

- ・ **神奈川県の環境政策**

環境政策の推進に当たっての基本的な計画である「環境基本計画」について解説しています。

- ・ **各分野における現状及び県の取組**

主に 2024 年度における県の環境の現状や取組について、分野ごとに記載しています。

各分野の冒頭には、関連するSDGsのアイコンを記載しています。

- ・ **世界・日本・神奈川の環境に関する動き**

これまでの環境をめぐる動きについて、年表形式で掲載しています。

目 次

神奈川県環境政策	1
----------	---

各分野における現状及び県の取組

1 気候変動への対応	4
------------	---

1 現況

(1) 地球温暖化のしくみとその影響	4
(2) 気候変動をめぐる社会的動向	5
(3) 神奈川県の温室効果ガスの排出状況	5

2 県の取組

(1) 地球温暖化対策推進条例と地球温暖化対策計画	6
(2) 条例・計画に基づく主な取組	7
(3) オゾン層保護のための取組	11

2 自然環境の保全	12
-----------	----

1 現況

(1) 生物多様性	12
(2) みどり	12
(3) 丹沢大山の自然環境	14
(4) 野生鳥獣	14
(5) 海・川・湖	15

2 県の取組

(1) 生物多様性の保全	16
(2) 身近なみどりの保全～都市と里地里山～	16
(3) 人や自然にやさしい水辺づくり	17
(4) 丹沢大山の自然再生	18
(5) 野生生物の保護管理	19
(6) 水域環境の保全	20
(7) 主な外来生物への対策	21

3 循環型社会の形成	23
------------	----

1 現況

(1) 一般廃棄物（ごみ）の現況	23
(2) 産業廃棄物の現況	24
(3) 不法投棄等・散乱ごみの現況	25

2 県の取組

(1) 資源循環の推進	26
(2) 適正処理の推進	31
(3) 災害廃棄物対策	34

4 大気環境の保全・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36

Ⅰ 現況

- (1) 大気汚染物質・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
- (2) アスベスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

2 県の取組

- (1) 大気環境保全対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
- (2) 自動車排出ガス対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
- (3) E V ・ F C V の普及に向けた取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

5 騒音・振動・悪臭への対応・・・・・・・・・・・・ 45

Ⅰ 現況

- (1) 騒音・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
- (2) 振動・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
- (3) 悪臭・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

2 県の取組

- (1) 騒音・振動対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
- (2) 悪臭対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

6 水環境の保全・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

Ⅰ 現況

- (1) 河川・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
- (2) 湖沼・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
- (3) 海域・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
- (4) 地下水・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
- (5) P F A S・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
- (6) 土壌汚染・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
- (7) 地盤沈下・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

2 県の取組

- (1) 環境基準達成に向けた規制・指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
- (2) P F A S 対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
- (3) 生活排水処理施設の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
- (4) 水源地域における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
- (5) 森林の保全・再生・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
- (6) ダム貯水池の保全・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
- (7) 地下水保全・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

7 化学物質への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

Ⅰ 現況

- (1) 化学物質の環境への排出量・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
- (2) ダイオキシン類・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
- (3) 化学物質環境調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
- (4) ゴルフ場の農薬・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68

2 県の取組

- (1) 事業者の自主的取組の促進 69
- (2) ダイオキシン類対策 69

8 環境教育・学習の推進 70

現況と県の取組

- (1) 環境情報の提供と相談対応 70
- (2) 地域における環境教育 71
- (3) 学校等における環境教育 72

9 県庁の率先実行 74

現況と県の取組

- (1) 神奈川県庁が自ら排出する温室効果ガス削減の取組 74
- (2) グリーン購入、電力のグリーン調達の推進 75
- (3) プラスチックごみの資源循環の推進 75
- (4) 県の公共事業における環境配慮 75

10 環境への負荷が少ない生活・事業活動 76

現況と県の取組

- (1) ライフスタイル転換の促進 76
- (2) 環境への負荷が少ない事業活動の促進、実践 77
- (3) 環境と共生するまちづくり 79
- (4) 環境への負荷が少ない交通の推進 79
- (5) 環境と調和した農林水産業 79
- (6) 多様な主体との連携 82

世界・日本・神奈川の環境に関する動き 86

神奈川県環境政策

神奈川県では、環境の保全と創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、環境分野における基本的な計画である「神奈川県環境基本計画」を策定し、これに基づき、環境政策を進めています。

現行の計画は、2024（令和6）年度から2030（令和12）年度までを計画期間としています。統合的な課題解決を目指す視点を持って、施策分野間の相互関係を重視しながら、4つの施策分野と横断的な取組からなる5つの柱により、環境の保全と創造に取り組んでいます。

Ⅰ 神奈川県環境基本計画

（Ⅰ）計画の概要

主な項目	主な内容	
基本目標	次世代につなぐ、いのち輝く環境づくり	
計画期間	2024（令和6）年度から2030（令和12）年度まで	
各施策分野と取組の方向性	計画で取り組む施策の分野を設定の上、分野ごとに現状と課題を分析し、取組の方向性を定めています。	
	施策分野	取組の方向性
	気候変動への対応	未来のいのちを守るため、脱炭素社会の実現に向けて、多様な主体が気候変動問題を自分事化し、オールジャパン、オール神奈川で緩和策と適応策に取り組めます。
	自然環境の保全	生物多様性による恵みを次世代へ引き継ぐため、ネイチャーポジティブ（自然再興）に向けて、地域の特性に応じた生物多様性の保全を推進するとともに、各主体が生物多様性の理解と保全行動に取り組めます。
	循環型社会の形成	限りある資源を有効活用し、快適な生活や良好な環境を将来の世代に引き継ぐため、廃棄物ゼロ社会の実現に向けて、あらゆる主体が資源循環（3R+Renewable）に取り組めます。
	大気環境・水環境の保全、環境リスクの低減	現在及び将来の県民の健康を守り、生活環境を保全するため、良好な大気環境や水環境の維持・向上を図るとともに、環境リスクの低減に取り組めます。
	横断的な取組	持続可能な社会の実現に向けて、あらゆる主体が環境問題を自分事化し、主体的に環境保全に取り組むための基盤となる普及啓発・環境教育等を推進します。

(2) 施策分野ごとの施策の柱・指標

各施策分野に施策の柱を定め、また施策の効果を象徴的に表す「指標」を設定しています。

施策分野	施策の柱	指標
気候変動への対応	緩和策	■ 県内の温室効果ガス排出量（2013 年度比） △ 19.3%（2020 年度）→ △ 50%（2030 年）
	適応策	
自然環境の保全	地域特性に応じた生物多様性の保全	■ 生物多様性の保全につながる活動を実施している人の割合（県民ニーズ調査結果） 48.8%（2022 年度）→ 60.0%（2030 年） ■ 県内の陸域及び内陸水域における生物多様性の保全が図られている面積の割合 32.13%（77,643ha）（2022 年度） → 32.20%（77,800ha）（2030 年）
	自然環境の保全に資する広域的な取組	
	自然環境の保全に向けた行動の促進	
循環型社会の形成	資源循環の推進	■ 生活系ごみ 1 人 1 日当たりの排出量 631 g / 人・日（2021 年度） → 608 g / 人・日（2030 年） ■ 産業廃棄物の排出量 1,714 万 t（2021 年度） → 1,826 万 t（2030 年） ■ 不法投棄等（不法投棄及び不適正保管）の残存量 15.0 万 t（2021 年度） → 前年度より減少（2030 年）
	適正処理の推進	
	災害廃棄物対策	
大気環境・水環境の保全、環境リスクの低減	大気環境の保全、更なる向上	■ PM2.5 の自動車排出ガス測定局における年平均値の全局平均値（大気） 8.9 μg / m³（2022 年度） → 前年度より削減（2030 年） ■ 東京湾の化学的酸素要求量（COD）の環境基準達成率（水質） 63.6%（2022 年度）→ 72.7%（2030 年）
	水環境の保全、更なる向上	
	騒音・振動等への対策	
	化学物質等によるリスクの低減	
横断的な取組	環境教育・学習の推進	—
	多様な主体との連携による施策の推進	
	その他	

(3) 計画の進捗管理及び見直し

計画の進捗状況は、毎年度、各施策分野の指標と個別計画等に基づく施策の取組状況から、分野全体の進捗を総合的に把握し、神奈川県環境審議会へ報告します。

計画期間の最終年度には、それまでの進捗状況、成果等を踏まえた課題を整理し、県民、市町村及び環境審議会の意見を聞きながら計画全体を見直し、改定します。

(4) 計画を補完する環境関係の諸計画

施策の各分野には、環境基本計画を補完する個別計画があり、これらの計画と整合性を図りながら、環境政策を推進しています。

▶ 主な個別計画

神奈川県地球温暖化対策計画

かながわ生物多様性計画

神奈川県循環型社会づくり計画

神奈川県自動車排出窒素酸化物及び粒子状物質総量削減計画

東京湾における化学的酸素要求量等に係る第9次総量削減計画

神奈川県環境基本計画

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pf7/cnt/f1023/index.html>

